

玉蜀黍

〔大和本草附錄一〕三尺黍。其莖蜀黍ヨリヒキシ、其高三尺バカリニ不過莖葉ノ形狀ト實トハ蜀

黍ニコトナラズ、味ハオトレリ、

〔多識編穀三〕玉蜀黍。今案多末岐比異名玉高粱。

〔和爾雅六穀〕玉蜀黍ナシキ王高粱並同番

〔書言字考節用集六植〕玉蜀黍一名玉高粱、俗云南蠻黍、

〔物類稱呼三植〕玉蜀黍なんきび。畿内にてなんばんきび、又菓子きびと云、伊勢にてはちぼ

く、西國及常陸或は越前にてたうきびと云、東國にてたうもろこし、遠州にてなんばんたうのき

びと云、奥州より越後邊にてまめきびとも、又くはしきびともいふ、奥の南部にてきみといふ、此

にては、常の黍をば備前にてさつまきび、因幡にてたかきびといふ、

〔和漢三才圖會百三〕玉蜀黍 玉高粱 俗云南蠻稷

本綱玉蜀黍出於西土種者罕、其苗葉俱似蜀黍而肥矮、亦似薏苡苗、高三四尺、六七月開花、成穗如稗

麥狀、苗心別出一苞如稷魚形、苞上出白鬚垂垂、久則苞拆子出、顆顆攢簇、子亦大如稷子、黃白色可燻

炒食之、炒拆白花、如炒拆糯穀之狀、甘平 調中開胃 當按稷字、

根葉 治沙石淋痛不可忍煎湯頻飲、

按玉蜀黍古者未有之、蠻舶將來、因稱南蠻黍、其形狀上所說甚詳、但苞上出鬚、赤黑色長四五寸、似

刻煙草、然謂白鬚者異耳、其子八月黃熟、摘取焙食、濡箸耑於水攪沙鍋、則粒粒脹拆如梅花樣、味脆

美、又不剥苞皮收貯者、越年不敗、又有子色甚赤者、

〔農稼業事後編四〕玉蜀黍の辨

先年豊後國岡の城下に遊びしとき、町家にて玉蜀黍西國にて唐きびといふ、畿内にてはなんばんきびといふ、

て是なんばんを略しの實を多く舂もて俵にはかりいる、を見て、其人に問しかば、答ていへらく、